

# 徳島県勝浦町

## 国内研修

私は2泊3日で、国内研修で徳島県勝浦町の人々の暮らしを調査しに行ってきた。これからそのことについて述べる。

1日目は不運なことに台風で飛行機が5時間も遅れて出発してしまったが、無事に徳島までたどり着くことができた。空港にはわざわざ市役所の方と、これからお世話になる石川さん夫妻たちが私たちのために迎えに来てくださった。まず初めに、徳島ラーメンをご馳走していただいた。食べるときに徳島ラーメンと東京のラーメンの違いに着目した。そこで気づいたことは、東京ラーメンはチャーシューを乗つけるのが普通なのだが、徳島ラーメンでは、たれで濃厚な味付けで煮込んだ豚バラ肉が使われていた。初めて豚バラ肉入りのラーメンを食べた。すごく美味しかった。

その後は、宿に向かうため、車に乗った。そこで外を見渡した時に、東京と徳島の違いをより実感した。お店がたくさんあり明るいので、その点では東京と大して変わらないなと思ったが、だいぶ奥のほうに進んでいくと、道を照らす外灯も無くて、真っ暗で何も見えない状態になってしまった。北峰さんの話によると、この時間でこの道では車はハイビームにしないと何も見えなくなるらしい。このことは、実際に徳島に来てみて気が付いたことだったが、夜でも東京のように当たり前のように夜も明るいと思っていた考えが変わった。そこで、なぜこのようなところは外灯がないのかを考えた。普通に考えれば、電気代の節約や、地域の予算がない、と考えた。しかしながら、調べた所、それなりの理由がありそうなことに気が付いた。まずは虫のトラブルのことである、もし、田舎の人が近所に外灯を作ったら、山奥の自動販売機を見て虫がいっぱいにいるような状況を見ることになるだろう。十中八九蛾などが、ワサワサと集まってくるに違いない。私がもしそこに住む人ならば、その状況を見るのもつらいだろうし、気持ち悪くて近寄りたくもなくなるだろ

う。だから、以上の理由で田舎の方には、外灯が少ないと私は考える。実際に外灯を設置して得をするのは観光客だけなのだろう。だから私みたいな都会から来た人は外灯がないから暗くて何も見えないから不便と考えてしまったが、それはごくたまにしか来ない人の、自分勝手なことしか考えない無責任な考えだと反省した。だから、田舎に外灯があえてないことは、きちんと理由があつてのことだと感じた。

そして私たちは食べ物を買うに行くためにコンビニに立ち寄った。そこでも感じたことがある。コンビニに入った時にアルバイト募集の紙があった。そこでは時給が700円からだと載っていた。東京にいる私は907円からが当たり前であるので、違和感を覚えた。そこで、都会と田舎のアルバイトの差について考えた。アルバイトは需要と供給が一致して賃金が決まるのだろう。だが、それは場合によっては不公平なのではないか、と思う。私も、コンビニでアルバイトをしていたとき、時給907円をいただいていた。だが、それでも低いと思ってしまう。田舎のコンビニはもっと安い。家からは遠そうだし、お客さんもそこまで来ないから暇な時間がかかなりあってそれに伴い重労働もあるだろう。東京にいる人は、その値段では動いてくれないであろう。だが、実際に働く人がいるおかげでコンビニは運営ができています。そこで私たちは買い物をした。深く考えていくとなんていえばいいか難しいことである。価値観の違いも実感した。

2日目は、6時半に起床だった。起きたらすぐにトライアルハウスまで歩いた。まず初めに感じた事は、空気が東京とは比べ物にならないくらい新鮮でおいしかった。いうまでもなく、山の景色は壮大で緑もとても多く、体中いっぱい自然そのものを感じた。そのくらい感動した。つくと、ご飯を用意してくださっていた。メニューは、ピーマン、玉ネギ、人参の炒め物と、パン、徳島県産のカボチャ入りの味噌汁だった。徳島県産の野菜を、存分に素材を生かした料理でいただけたことは幸せなほどおいしかった特に、かぼちゃは甘くてうまみがありすごくおいしかった、食後はすぐに石川夫妻が暮らす予定の家に向かった。向かう途中も緑だらけであたり一面、山だらけだった。きれいで厳かで感動した、行くまでの車で行く道はかなりの高い位置にあり、少し怖かったけれど、眺めはかなり良かった。着いたら、さっそく、壁塗りの師匠に自己紹介をして、作業が始まった。初めに師匠に見本を見せてもらったところ、いけそうだと感じてしまった。だがしかし、実際にやってみると、そう簡単にペンキは伸びてくれずに、下にボロボロ落としまくるなど、散々な結果になってしまい落ち込んだ。だが、師匠が手直ししてくれたので何とか良かったので良かった。何度も何度もやっていくうちに、少しずつではあるが、ましになった。作業場所は予想以上に暑くて汗だくでやった。

作業にみんなが熱中しているときに昼食の掛け声があったので、いったん中断してふれあいの里さかもとに戻り、カレーをいただいた。なんと私の好きな甘口だった。トッピングは徳島県産のゴーヤ、ナス、かぼちゃだった。どれも野菜のうまみがありとても美味しかった。ごちそうさまでした。食べ終わったので、また作業場所に戻った。戻る途

中も同じ道を通ったがやはり美しかった。作業場所に戻ると、新聞の取材で記者のかたがいた。驚いたが、初めての経験なのでうれしかった。午後の作業は、午前の作業よりも格段にできるようになっていた。あっという間に3時間経過し、終わった。もっとやりたいて思うほど没頭していた。作業が終わって落ち着いたころ、石川さんのご厚意ですだちの収穫をさせて頂いた。かごいっぱいになるまで取らせて頂いた。

トライアルハウスに戻り、夕食を調理した。メニューは、焼きなす、かぼちやの煮物、かぼちやもち、オクラとナスのお味噌汁だった。これらはほとんどが徳島産だったので食べながら徳島を感じた。石川さんにも徳島の魅力を語っていただき、さらに勉強になった。

この2日間では、徳島県勝浦町の人々の暮らしを勉強させていただいた。1つ目は車社会の問題である。田舎は、お店が少なく、車がないと生活が難しくなる。ただでさえ年配の方が多いから、事故が多い、という問題にもつながってってしまう。どのようにしたら便利に事故率を低く、快適に暮らせるか考える。それを今後の課題にしていきたい。

年配の方が多いといっても、夏にはお祭りや花火大会がある。若者がどれだけ貢献していけるかで活性化がもっと向上していくのではないのかと思う。だから将来は、都会でも田舎でも若者の力で田舎も活発になり、老若男女が健康で幸せに送れる社会をつくっていきたい。高齢化、車社会、どれも関連している問題なので、もっと理解を深めていくために勉強していこうと思う。